

序

昨年、所報第2号を発行してから1年をへて、漸く第3号を発行する運びになりました。

今年はオリンピックの年で、各種の目新しい建築物ができつつあり、また建築基準法の改正にともなって、いわゆる超高層建築も出現しつつあります。

当然、これ等の新しい分野には、多くの解明すべき問題があります。しかし、これ等の他にも実際の施工面からみると、華やかな脚光こそ浴びないが、地道に、しかも早急に解決して行かねばならない問題が数多く残されております。そしてこれ等の解決が、今日の建築物の安全と経済に、意外に大きく関係してきます。そしてそれ等は、直接明日の問題につながって行きます。

本号に収録された論文にも、このような意味で相当意義のあるものも含まれており、いささか読者の皆様の御参考になるのではないかと自負しておりますが、問題の取扱い方、掘り下げ方等について諸学兄の御叱正や御鞭撻を賜ることができれば、所長として望外の幸せと存じます。

1964年4月

清水建設研究所 所長

大 築 志 夫